

熊本高等専門学校				共通教育科（八代）								開講年度		平成24年度（2012年度）													
学科到達目標																											
科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																担当教員	履修上の区分				
						1年				2年				3年				4年						5年			
						前		後		前		後		前		後		前		後				前		後	
						1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q			1 Q	2 Q	3 Q	4 Q
一般	必修	国語Ⅳ	0013	学修単位	1												1							池田 翼			
一般	必修	科学技術と現代社会	0021	学修単位	1													1							小林 幸人		
一般	必修	多変数の微分積分学	0029	学修単位	1												1								小鉢 暢夫,東田 洋次		
一般	必修	行列式と行列の応用	0037	学修単位	1													1							小鉢 暢夫,東田 洋次		
一般	必修	スポーツ科学	0045	履修単位	1												2								四宮 一郎		
一般	必修	英語ⅣA	0052	学修単位	1												1								宇ノ木 寛文		
一般	必修	英語ⅣB	0059	学修単位	1													1							岩下 いずみ		
一般	選択	一般特別セミナー	0066	履修単位	1												集中講義								米沢 徹也		
一般	選択	日本現代文学	0001	学修単位	2														2						池田 翼		
一般	選択	古典文学	0002	学修単位	2														2						道園 達也		
一般	選択	経済学	0003	学修単位	2														2						時松 雅史		
一般	選択	哲学	0004	学修単位	2														2						小林 幸人		
一般	選択	健康科学	0005	履修単位	2														2		2				四宮 一郎		
一般	選択	総合英語A	0006	学修単位	1														1						関 文雄		
一般	選択	歴史と文化	0007	学修単位	1														1						遠山 隆淑		
一般	選択	総合英語B	0008	学修単位	1																1				宇ノ木 寛文		
一般	選択	社会と法	0009	学修単位	1																1				小林 幸人		
一般	選択	一般特別セミナー	0010	履修単位	1														集中講義						米沢 徹也,小島 俊輔		

熊本高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	日本現代文学	
科目基礎情報							
科目番号	0001			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	共通教育科 (八代)			対象学年	5		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	適宜資料を配布する						
担当教員	池田 翼						
到達目標							
①各時期の日本文学作品について、新旧仮名遣い問わず正確に音読することができる。 ②各時期の日本文学作品について、同時代的状況を踏まえて読みとくことができる。 ③各時期の日本文学作品について、作家論的背景を踏まえた上で自分なりの「読み」を展開できる。 ④③までで準備された自分なりの「読み」を考察として論述できる。 ⑤課題に対して、主体的に取り組むことができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
①各時期の日本文学作品について、新旧仮名遣い問わず正確に音読することができる。	戦前～平成期までの日本文学作品において、新旧仮名遣い問わず正確に音読することができる。			戦前～平成期までの日本文学作品において、新仮名遣いであれば正確に音読することができる。		戦前～平成期までの日本文学作品において、新仮名遣いであっても正確に音読することができない。	
②各時期の日本文学作品について、同時代的状況を踏まえて読みとくことができる。	戦前～平成期までの日本文学作品において、同時代状況を踏まえた解釈を論理的に説明できる。			戦前～平成期までの日本文学作品において、同時代状況を踏まえた解釈を説明できる。		戦前～平成期までの日本文学作品において、同時代状況を踏まえた解釈を説明できない。	
③各時期の日本文学作品について、作家論的背景を踏まえた上で自分なりの「読み」を展開できる。	戦前～平成期までの日本文学作品において、作家論的背景を踏まえた解釈を論理的に説明できる。			戦前～平成期までの日本文学作品において、作家論的背景を踏まえた解釈を説明できる。		戦前～平成期までの日本文学作品において、作家論的背景を踏まえた解釈を説明できない。	
学科の到達目標項目との関係							
本科到達目標 4-1							
教育方法等							
概要	日本現代文学を中心にした作品の読解を通して、文学作品の基本的な「読み」の方法を身に着ける。 また、多様な作品の鑑賞を通して、文学的思考の涵養や人間の多様性への理解を目指す。						
授業の進め方・方法	上記教科書および適宜配布するプリントを用いて、近代から現代にいたるまでの日本文学作品を取り上げ、作家論的背景・同時代的状況を加味しながら読解を試み、作品への理解を深める。講義終了時には、課題を出す。本科目は学修単位であるため、課題の提出状況が80%に満たない場合は単位修得を認めない。 各授業で取り上げた作品について、授業後論点を整理しておくこと。 また、他の学生による自分の視点とは違った「読み」について、その「読み」に至った過程を考察し、次回からの自分の「読み」の多層化に向けて吸収すること。						
注意点	授業への質問や要望は、メール・来室問わず随時受け付けます。 作品を読解するにあたっては、あなた独自の「読み」を展開できるように取り組んでください。独自の「読み」とは、作家論的背景や同時代的状況を抑えつつも、既存の読解・固定観念にとらわれることなく、あなた自身の感性で作品に向き合うことで生まれてきます。毎時の課題にて、皆さんの多様な「読み」が展開されることを期待しています。伸びやかな感性・柔軟な思考で授業に取り組んでください。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	文学とは何か		文学の定義について、様々な資料を読み解きながら考え、自分なりに考えることができる。		
		2週	戦前の日本文学 (1)		戦前の日本文学作品について、作品の背景を含めた概要について知る。		
		3週	戦前の日本文学 (2)		戦前の日本文学作品について、文学史的な知識を背景に、自分なりに読み解き解釈することができる。		
		4週	戦前の日本文学 (3)		戦前の日本文学作品について、自分なりの解釈を表現することができる。また、他の受講者の解釈を評価することができる。		
		5週	戦後～昭和期の日本文学 (1)		戦後～昭和期の日本文学作品について、作品の背景を含めた概要について知る。		
		6週	戦後～昭和期の日本文学 (2)		戦後～昭和期の日本文学作品について、文学史的な知識を背景に、自分なりに読み解き解釈することができる。		
		7週	戦後～昭和期の日本文学 (3)		戦後～昭和期の日本文学作品について、自分なりの解釈を表現することができる。また、他の受講者の解釈を評価することができる。		
		8週	〔中間試験〕		戦前～昭和期の日本文学作品について、基礎的な知識を有している。また、作品を読み解き、自分なりの解釈を表現できる。		
	2ndQ	9週	平成期の日本文学 (1)		平成期の日本文学作品について、作品の背景を含めた概要について知る。		
		10週	平成期の日本文学 (2)		平成期の日本文学作品について、文学史的な知識を背景に、自分なりに読み解き解釈することができる。		
		11週	平成期の日本文学 (3)		平成期の日本文学作品について、自分なりの解釈を表現することができる。また、他の受講者の解釈を評価することができる。		
		12週	ゼロ年代以降の日本文学 (1)		ゼロ年代以降の日本文学作品について、作品の背景を含めた概要について知る。		
		13週	ゼロ年代以降の日本文学 (2)		ゼロ年代以降の日本文学作品について、文学史的な知識を背景に、自分なりに読み解き解釈することができる。		

		14週	ゼロ年代以降の日本文学（3）	ゼロ年代以降の日本文学作品について、自分なりの解釈を表現することができる。また、他の受講者の解釈を評価することができる。
		15週	日本現代文学まとめ	講義全体で学んだことを、系統的に理解する。また、様々な作品を関連づけてテーマを設定し、自分なりの考えを表現できる。
		16週	〔前期末試験〕	平成期～ゼロ年代以降の日本文学作品について、基礎的な知識を有している。また、作品を読み解き、自分なりの解釈を表現できる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				代表的な文学作品を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その効果について説明できる。	3	前3,前6,前8,前10,前13,前15,前16
				文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べるができる。	3	前2,前5,前8,前9,前12,前15,前16
				鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章（詩歌、小説など）の創作をとおして、感受性を培うことができる。	3	前3,前4,前6,前7,前8,前10,前11,前13,前14,前15,前16
				読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。	3	前1,前2,前3,前5,前6,前8,前9,前10,前12,前13,前15,前16
				他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想・思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。	3	前4,前7,前8,前11,前14,前15,前16
				相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。	3	前4,前7,前11,前14

評価割合

	試験	課題	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	60	40	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

熊本高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	古典文学	
科目基礎情報							
科目番号	0002			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	共通教育科 (八代)			対象学年	5		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	土左日記 (岩波文庫)						
担当教員	道園 達也						
到達目標							
1. 歴史的仮名遣いの古文を音読できる。 2. 参考書を活用し、古典文法の基礎を踏まえ、古文を現代語訳できる。 3. 自ら課題を設定し、自分なりに考察できる。 4. 提示された論点を整理し、ディスカッションできる。 5. 課題に対して、主体的に取り組むことができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	歴史的仮名遣いの古文を、流暢に音読できる。			歴史的仮名遣いの古文を音読できる。		歴史的仮名遣いの古文を音読できない。	
評価項目2	参考書を活用し、古典文法の基礎を踏まえ、古文を分かりやすく現代語訳できる。			参考書を活用し、古典文法の基礎を踏まえ、古文を現代語訳できる。		古文を現代語訳できない。	
評価項目3	自ら課題を設定し、自分なりに考察し、論理的に分かりやすく表現できる。			自ら課題を設定し、自分なりに考察できる。		自ら課題を設定し、自分なりに考察できない。	
評価項目4	提示された論点を整理し、積極的にディスカッションできる。			提示された論点を整理し、ディスカッションできる。		提示された論点を整理し、ディスカッションできない。	
評価項目5	課題に対して、主体的に取り組むことができる。			課題に対して、主体的に取り組むことができる (8割以上)。		課題に対して、主体的に取り組むことができない。	
学科の到達目標項目との関係							
本科到達目標 4-1							
教育方法等							
概要	古典文学に表現された人間の知を読み解きたい。人生や社会、自然に対する思想と感性は、共通性と差異によって〈いま・ここ〉に生きる私たちの姿を照らし出してくれる。 今年度は『土左日記』を精読することで、その一端に触れたい。						
授業の進め方・方法	『土左日記』を精読する。学生は本文と現代語訳、および課題設定と考察の資料を作成、口頭発表を行う。また、その他の学生は事前に該当箇所を通読し、発表者の評価と同時に、発表後の質疑応答をおこなう。以上の作業によって学習単位への対応とする。古文への抵抗感をやわらげ、その世界が身近に感じられるように配慮したい。						
注意点	全受講生は、次時の範囲を読むこと。 発表担当者は、本文と現代語訳、および課題設定と考察の資料を作成すること。 全受講生は発表担当者の評価、および質疑応答をおこなう。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業の進め方		授業の概要および発表資料の作成と口頭発表の手順を理解する。		
		2週	紀貫之と「土左日記」について		紀貫之と「土左日記」の文学史的 위치を理解する。		
		3週	「土左日記」精読 (1)		発表担当者は担当箇所について、発表資料を作成し、口頭発表を行う。また、発表後の討論に参加する。		
		4週	「土左日記」精読 (2)		同上		
		5週	「土左日記」精読 (3)		同上		
		6週	「土左日記」精読 (4)		同上		
		7週	「土左日記」精読 (5)		同上		
		8週	前期中間試験		精読 (1) ~ (5) の範囲で、論点について考察を記述できる。		
	2ndQ	9週	「土左日記」精読 (6)		発表担当者は担当箇所について、発表資料を作成し、口頭発表を行う。また、発表後の討論に参加する。		
		10週	「土左日記」精読 (7)		同上		
		11週	「土左日記」精読 (8)		同上		
		12週	「土左日記」精読 (9)		同上		
		13週	「土左日記」精読 (10)		同上		
		14週	「土左日記」精読 (11)		同上		
		15週	前期末試験		精読 (6) ~ (11) の範囲で、論点について考察を記述できる。		
		16週	前期末試験の返却と解説		「土左日記」の文学史的 위치、および表現の特色について学んだことを再確認する。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。		3	前2,前8,前15,前16

				古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができる。	3	前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14
				代表的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。また、それらに親しもうとすることができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14
				教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。	3	前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14
				情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	3	前1,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14
				他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想・思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。	3	前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14
				相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。	3	前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14
				社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。	3	前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14

評価割合							
	試験	発表（含討論）					合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

熊本高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	経済学	
科目基礎情報							
科目番号		0003		科目区分		一般 / 選択	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科		共通教育科（八代）		対象学年		5	
開設期		前期		週時間数		2	
教科書/教材		必要に応じて内容に関連する資料を配布する。					
担当教員		時松 雅史					
到達目標							
本講義では古典派経済学からマルクス経済学、さらにはケインズ経済学の基本的な理論を理解することを目標とする。また株式や先物取引の仕組みについて理解し、簡単な金利計算ができることを目標とする。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1 経済学の分類と古典派経済学、マルクス経済学について		スミスからフリードマンまで経済学の変遷を理論と著者名を挙げながら説明できる。またマルクスの商品・貨幣・資本の理論について論理的に説明できる。		スミスからフリードマンまで経済学の変遷の概略を端的に説明できる。またマルクスの商品・貨幣・資本の理論について端的に説明できる。		スミスからフリードマンまで経済学の変遷の概略を端的に説明できない。またマルクスの商品・貨幣・資本の理論について端的に説明できない。	
評価項目2 マルクス経済学とケインズ経済学		マルクスの生産論について論理的に数式を用いて説明できる。ケインズの有効需要の理論について説明できる。		マルクスの生産論について端的に説明できる。ケインズの有効需要の理論について端的に説明できる。		マルクスの生産論について端的に説明できない。ケインズの有効需要の理論について端的に説明できない。	
評価項目3 株式、先物取引、金利計算について		株式会社と株式について基礎的用語を用いて説明できる。先物取引の成立と仕組みについて説明できる。金利計算は複利計算とローン計算ができる。		株式について基礎的用語を用いて説明できる。先物取引の仕組みについて説明できる。金利計算は複利計算とローン計算ができる。		株式について基礎的用語を用いて説明できる。先物取引の仕組みについて説明できない。金利計算は複利計算とローン計算ができない。	
学科の到達目標項目との関係							
本科到達目標 4-1							
教育方法等							
概要		アダムスミスかやリカードをはじめとする古典派経済学の理論からマルクス経済学やケインズ経済学等を学習する。さらに株式市場や先物取引の仕組みを学び、金利計算もおこなう。					
授業の進め方・方法		授業中に配布するプリントをもとに講義する。講義終了時には毎回課題を提出して、学生は家庭で自学自習を行う。また授業の終わりに学生からの質問・意見の時間も設定する。					
注意点		授業ごとに課す課題は必ず提出すること。本科目は学修単位であるため、8割以上の課題を提出しない場合は単位の認定を行わない。また課題の点を加えた総合評価の点数が60点を満たない場合には再評価の試験を行うことがある。					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス・経済学の分類		経済学を大きく分類して説明できる。		
		2週	古典派の理論 1		アダムスミスの理論を理解できる。		
		3週	古典派の理論 2		リカードの理論を理解できる。		
		4週	限界学派について		限界効用の理論について理解できる。		
		5週	マルクスの理論 1		商品とは何かについて説明できる。		
		6週	マルクスの理論 2		価値形態論から貨幣の必然性について理解できる。		
		7週	マルクスの理論 3		資本の増殖について理解できる。		
		8週	中間試験		到達目標の達成度を確認する。		
	2ndQ	9週	株式市場と現代経済 1		株式の基本的な知識を獲得する。		
		10週	株式会社と現代社会 2		株式売買のシミュレーションにより株価の動向について検証する。		
		11週	ケインズの理論 1		有効需要の原理について理解できる。		
		12週	ケインズの理論 2		乗数理論について理解できる。		
		13週	新古典派の理論		自然失業率について理解できる。		
		14週	先物市場と現代社会		先物取引の成立と仕組みについての知識を獲得する。		
		15週	金利計算		複利計算とローン計算を計算できる。		
		16週	定期試験の解説		定期試験の問題を再確認する。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	産業活動（農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等）などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。		3	
			公民	資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できる。		3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前11,前12,前13
				現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。		3	前1,前9,前10,前14,前15
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計

総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

熊本高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	哲学
科目基礎情報						
科目番号	0004		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	共通教育科 (八代)		対象学年	5		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	特に指定しない。講義資料を配布する。/参考資料は適宜紹介する。					
担当教員	小林 幸人					
到達目標						
1. 哲学的思考方法を理解し、具体的問題に対して適用できる。 2. 認識論について、さまざまな考え方を理解し、説明できる。 3. 科学技術と社会、環境の関係について、さまざまな考え方を理解し、説明できる。 4. 自分の問題意識に基づき考察し、主張を提示することができる。 5. 課題に対して主体的に取り組むことができる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
1. 哲学的思考方法を理解し、具体的問題に対して適用できる。		授業で取り上げた哲学思想について、自分の視点からとらえた具体例に適用し、説明することができる。	授業で取り上げた哲学思想について、具体例に適用し、説明することができる。	授業で取り上げた哲学思想について、具体例に適用することができない。		
2. 認識論について、さまざまな考え方を理解し、説明できる。		認識の真理性に関する議論について理解した内容を文章でわかりやすく説明することができる。	授業で取り上げた内容について、用語・概念を正しく用いて文章にすることができる。	授業で取り上げた内容について、文章で説明することができない。		
3. 科学技術と社会、環境の関係について、さまざまな考え方を理解し、説明できる。		科学技術の与える影響、社会との相互作用について理解した内容を文章でわかりやすく説明することができる。	授業で取り上げた内容について、用語・概念を正しく用いて文章にすることができる。	授業で取り上げた内容について、文章で説明することができない。		
4. 自分の問題意識に基づき考察し、主張を提示することができる。		独自の問題関心から考察・主張を提示することができる。 小論文の作成技法を身に着け、主張を説得的に提示できる。	自分の視点から考察した内容について、文章でわかりやすく提示することができる。	自分の視点から問題を考察し、文章で提示することができない。		
5. 課題に対して主体的に取り組むことができる。		自習課題について、自分の視点から考察することができる。 自習課題をすべて提出する。	自習課題について80%以上提出する。	自習課題提出状況が80%未満。 ※ 不合格となる。		
学科の到達目標項目との関係						
本科到達目標 4-1 本科到達目標 5-1						
教育方法等						
概要	哲学的な思考方法を理解し、論理的に考察し、説明するためのスキル向上を図る。 今年度取り上げるテーマは、認識論および科学技術論である。					
授業の進め方・方法	講義中心で行うが、事例に即し、あるいは提示されたテーマに関して受講者に考察、表現させることもおこなう。また、思考訓練を兼ね、アクティビティを実施することもあるため、積極的に授業に参加してほしい。					
注意点	学修単位科目（15時間の授業に対して30時間の自学自習が必要）のため、授業中に課す課題の80%以上の提出がない場合、試験とレポートにより算定する成績に関わらず、単位を認定しない。 授業で説明されたことを聴いて理解できたと思うだけでなく、理解した内容を具体的に用いることができるよう、自習課題等に取り組むこと。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス：問題提起 認識論のアポリア	近代哲学の認識論上の問題について理解し、説明できる。		
		2週	近代的世界観と自然科学的認識論	近代的世界観の特徴と自然科学的態度との関係について説明できる。		
		3週	主観-客観構造と認識論上の問題	認識論の問題の背景となる主観-客観構造について理解し、説明できる。		
		4週	カントの認識論：哲学的認識論（1）	カントの認識論（純粋理性批判）の概要について理解し、近代認識論をどのように乗り越えようとしているのか説明できる		
		5週	フッサールの認識論：哲学的認識論（2）	フッサールの認識論の概要について理解し、説明できる。		
		6週	認識の言語論的構成	言語論（ソシュールなど）の基本について理解し、認識とのかかわりについて説明できる。		
		7週	社会構成主義	社会構成主義の概要について理解し、特にリスク問題と関連させながら説明できる。		
		8週	〔中間試験〕	前半の学習内容について理解度を確認する。		
	2ndQ	9週	科学・技術と社会との関係（1）	現代社会における科学・技術の問題を考察する背景や意味について理解し、説明できる。		
		10週	ハイデガーのテクノロジー論（1）	近代テクノロジーに対する否定的見解について理解し、説明できる。		
		11週	ハイデガーのテクノロジー論（2）	ハイデガーのテクノロジー論に基づき、現代社会の種々の問題について検討し、自分の考えを述べる。		
		12週	テクノロジーの影響：政治・経済活動への影響	テクノクラシーなど、テクノロジーの発達が政治、経済分野にどのような影響を及ぼしたのかを理解し、説明できる。		
		13週	近代合理主義の影響：システムと生活世界	近代科学の根底にある合理主義について、J.ハーバーマスの議論の概要を理解し、説明することができる。		

		14週	科学・技術と人類の福祉	日本学術者会議などの見解を手掛かりに、科学・技術のあるべき方向とその可能性について検討する。
		15週	科学・技術と現代社会	後半の授業内容を振り返り、科学・技術と現代社会との関係について考察し、自分の考えを述べる（小論文演習）
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。	3	前1,前3,前4,前5,前6,前7
				諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。	3	前1,前3,前4,前5,前6,前7
				諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。	3	前1,前3,前4,前5,前6,前7
			地歴・公民	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	3	前2,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14
				社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。	3	前2,前9,前10,前11,前12,前13,前14
				環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	3	前9,前12,前13

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	0	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	20	20

熊本高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	健康科学
科目基礎情報						
科目番号	0005		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	共通教育科 (八代)		対象学年	5		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	必要に応じ資料を配布または掲示するが、ニュースや新聞、インターネット及びテレビ放映を活用し、自学自習すること。					
担当教員	四宮 一郎					
到達目標						
1. 自分の体力を把握することができる。 2. スポーツが人に与える効果について理解することができる。 3. 日常生活における身体活動水準が理解できる。 4. 各年代が抱える健康問題が理解できる。 5. 健康と運動の関係を理解し、説明することができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
講義	生涯にわたり健康な生活を送るための知識を身につけ、健康を害する行動や環境への対処方法を理解し、総合的な考察を説明(記述)することができる。		生涯にわたり健康な生活を送るための知識を身につけ、健康を害する行動や環境への対処方法を理解し、試験で答えることができる。		生涯にわたり健康な生活を送るための知識や、健康を害する行動や環境への対処方法を理解したり、試験で答たりすることができない。	
実技	基本的な技術を身につけ、ルールを覚え他者と協力し、積極的に練習や試合を運営することができる。 経験者は、チームやクラスメイトに技能向上に関する適切な指導を行い、被指導者の技能を向上させることができる。		基本的な技術を身につけ、ルールを覚え他者と協力し、練習や試合に参加できる。 経験者はチームやクラスメイトに技能向上に関する指導をすることができる。		基本的な技術やルールを身につけたり、ルールを覚えたりすることが殆どできず、練習や試合に対して消極的な態度で参加している。 経験者でありながら、チームメイトやクラスメイトに技能向上に関する指導や競技、ゲーム運営及び補助を行わない。	
学科の到達目標項目との関係						
本科到達目標 4-4						
教育方法等						
概要	生涯にわたり健康な生活を送るためには、運動は欠かせないものである。生活習慣病が社会問題となっている今日、運動を日常生活の一部として行っている人も少なくない。そこで健康科学では、生涯スポーツの見地から、健康に関する知識を土台とし、年齢に応じたスポーツやゲームを取り入れ、余暇の善用と運動の必要性を学び、日常生活に役立てるようにする。					
授業の進め方・方法	授業は講義と実技からなり、授業前半を講義、後半を実技とする。 講義については、本授業で身につけた知識を高専時代に留まらず、将来の生活における健康や安全に活用する態度を養う。 実技については、安全を第一に効率よく技術を身につけ、運動・スポーツの楽しさを味わい、ルールやマナー、指導法についても理解する。					
注意点	授業中に配布した資料を読み、よく理解しておくこと。また、授業で取り扱ったスポーツに関する資料を図書館やインターネットを利用し、収集しておくこと。 授業を安全に展開するために、指定した品位ある身なりと態度・マナーで受講すること。 授業内容や健康づくり、体力づくり及びスポーツ関係の質問、相談については、昼休みと放課後に教員室及び第一体育館教員控室にて受ける。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション 新体力テスト(握力・長座体前屈・立ち幅跳び・上体起こし・反復横飛び)		授業の進め方や評価方法を確認する。 新体力テストの測定を行い、自身の体力を把握する。	
		2週	新体力テスト(50m走・ハンドボール投げ・20mシャトルラン)		新体力テストの測定を行い、自身の体力を把握する。	
		3週	レクリエーションとは何か QOLと運動、体組成の測定		レクリエーションの意味と分類について理解する。 QOLについて理解する。自身の体組成を測定し現状を把握する。	
		4週	レクリエーションの効果 現代の健康問題(生活習慣病)		レクリエーションが人に与える効果を理解する。 生活習慣病について理解する。	
		5週	レクリエーションプログラムの企画と運営 健康ブームの背景		レクリエーションプログラムを企画し、運営方法を学ぶ。 健康ブームがおこった背景を理解する。	
		6週	レクリエーションプログラムの企画と運営 形態の意味		レクリエーションプログラムを企画し、運営方法を学ぶ。 形態を表すものは何かを学ぶ。	
		7週	レクリエーションプログラムの企画と運営 脂肪蓄積のメカニズム		レクリエーションプログラムを企画し、運営方法を学ぶ。 脂肪蓄積のメカニズムを理解し、その影響について学ぶ。	
		8週	前期中間試験			
	2ndQ	9週	前期中間試験の返却と解説			
		10週	健康と運動 適切な栄養・食事摂取		健康と運動の関わりについて理解する。 適切な食事とは何か、理想的な食事の摂取について理解する。	
		11週	健康と運動 ストレス論		健康と運動の関わりについて理解する。 ストレスが人に与える影響とその解消法について学ぶ。	

後期		12週	健康と運動 嗜好と依存症	健康と運動の関わりについて理解する。 嗜好と依存症の違いについて理解する。
		13週	生活習慣病 体組成の自己測定	わが国の生活習慣病とその原因について理解する。 自身の体組成を測定し現状を把握する。
		14週	生活習慣病 体組成の自己測定	わが国の生活習慣病とその原因について理解する。 自身の体組成を測定し現状を把握する。
		15週	前期末試験	
		16週	前期末試験の返却と解説	
	3rdQ	1週	生活習慣病と運動・食事 運動とエネルギー	生活習慣病を予防するには、適切な運動と食事が重要であることを理解する。 運動をするためのエネルギー獲得機構について理解する。
		2週	生活習慣病と運動・食事 酸素摂取量の仕組み	生活習慣病を予防するには、適切な運動と食事が重要であることを理解する。 酸素摂取がどのように行われているのかを理解する。
		3週	生活習慣病と運動・食事 有酸素運動がもたらす効果	生活習慣病を予防するには、適切な運動と食事が重要であることを理解する。 適切な有酸素運動が人にもたらす効果を理解する。
		4週	運動量の計算 (カロリーとメッツ) 適切な有酸素運動	運動量の計算方法を学ぶ。 それぞれに遭った有酸素運動の方法を知る。
		5週	運動量の計算 (カロリーとメッツ) 基礎代謝の計算	エネルギー消費量の計算方法を学ぶ。 基礎代謝の計算方法を学ぶ
		6週	栄養素と食事とカロリー 体組成の自己測定	食事に含まれる栄養素の量とエネルギー（カロリー）について理解する。 自身の体組成を測定し現状を把握する。
		7週	栄養素と食事とカロリー 体組成の自己測定	食事に含まれる栄養素の量とエネルギー（カロリー）について理解する。 自身の体組成を測定し現状を把握する。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	後期中間試験の返却と解説	
		10週	飲酒と健康 体力とトレーニング論	飲酒と健康の関わりについて理解する。 体力の分類と各種トレーニング論について理解する。
		11週	飲酒と健康 体力とトレーニング論	飲酒と健康の関わりについて理解する。 体力の分類と各種トレーニング論について理解する。
		12週	喫煙と健康 筋力・パワー・筋持久力トレーニング	喫煙と健康のかかわりについて理解する。 筋力・筋パワー・筋持久力トレーニングの方法について学ぶ。
		13週	喫煙と健康 パフォーマンス発揮と心理	喫煙と健康のかかわりについて理解する。 パフォーマンスを十分に発揮するためには心理的な要因も重要であることを理解する。
		14週	疾病（感染症とその予防） 体組成の自己測定	感染とその予防法について学ぶ。 自身の体組成を測定し現状を把握する。
		15週	学年末試験	
		16週	学年末試験の返却と解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	相手の意見を聞き、自分の意見を伝えることで、円滑なコミュニケーションを図ることができる。	3	
			相手を理解した上で、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ている。	3	
			集団において、集団の意見を聞き、自分の意見も述べ、目的のために合意形成ができる。	3	
			目的達成のために、考えられる提案の中からベターなものを選び合意形成の上で実現していくことができ、さらに、合意形成のための支援ができる。	3	
			ICTやICTツール、文書等を基礎的な情報収集や情報発信に活用できる。	3	
			ICTやICTツール、文書等を自らの専門分野において情報収集や情報発信に活用できる。	3	
			現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を理解し、そこから主要な原因を見出そうと努力し、解決行動の提案をしようとしている。	3	
			現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を理解し、発見した課題について主要な原因を見出し、論理的に解決策を立案し、具体的な実行策を絞り込むことができる。	3	
			事象の本質を要約・整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。	3	
			複雑な事象の本質を整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。結論の推定をするために、必要な条件を加え、要約・整理した内容から多様な観点を示し、自分の意見や手順を論理的に展開できる。	3	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性		
			身内の中で、周囲の状況を改善すべく、自身の能力を発揮できる。 集団の中で、自身の能力を発揮して、組織の勢いを向上できる。	3 3	

				日常生活の時間管理、健康管理、金銭管理などができる。常に良い状態を維持するための努力を怠らない。	3	
				ストレスやプレッシャーに対し、自分自身をよく知り、解決を試みる行動をとることができる。日常生活の管理ができるとともに、目標達成のために対処することができる。	3	
				学生であっても社会全体を構成している一員としての意識を持って、行動することができる。	3	
				市民として社会の一員であることを理解し、社会に大きなマイナス影響を及ぼす行為を戒める。人間性・教養、モラルなど、社会的・地球的観点から物事を考えることができる。	3	
				チームワークの必要性・ルール・マナーを理解し、自分の感情の抑制、コントロールをし、他者の意見を尊重し、適切なコミュニケーションを持つとともに、当事者意識を持ち協調して共同作業・研究をすすめることができる。	3	
				組織やチームの目標や役割を理解し、他者の意見を尊重しながら、適切なコミュニケーションを持つとともに、成果をあげるために役割を超えた行動をとるなど、柔軟性を持った行動をとることができる。	3	
				先にたって行動の模範を示すことができる。口頭などで説明し、他者に対し適切な協調行動を促し、共同作業・研究をすすめることができる。	3	
				目指すべき方向性を示し、先に立って行動の模範を示すことで他者に適切な協調行動を促し、共同作業・研究において、系統的に成果を生み出すことができる。リーダーシップを発揮するために、常に情報収集や相談を怠らず自身の判断力をも磨くことができる。	3	
				法令を理解し遵守する。基本的な人権について理解し、他者のおかれている状況を理解することができる。自分が関係している技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者が社会に負っている責任を認識している。	3	
				法令を理解し遵守する。研究などで使用する、他者のおかれている状況を理解できる。自分が関係している技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者が社会に負っている責任を認識し、身近で起こる関連した情報や見解の収集に努めるなど、技術の成果が社会に受け入れられるよう行動できる。	3	
				未来の多くの可能性から技術の発展と持続的社会の在り方を理解し、自らのキャリアを考えることができる。	3	
				技術の発展と持続的社会の在り方に関する知識を有し、未来社会を考察することができるとともに、技術の創造や自らのキャリアをデザインすることが考慮できる。	3	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

熊本高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	総合英語A
科目基礎情報						
科目番号	0006		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	共通教育科 (八代)		対象学年	5		
開設期	前期		週時間数	1		
教科書/教材	配布プリント					
担当教員	関 文雄					
到達目標						
1. 研究活動や就職後の仕事に必要な語彙力を身につける。 2. 英文を聞き（あるいは読み）、その英文の特性に応じた聞き方で（あるいは読み方で）、情報や考えを理解することができる。 3. 内容を理解した英文について、発音、リズム、イントネーションに留意しながら表現し、その内容を別の英語の表現を用いて伝えることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
【語彙に関する評価】研究活動や就職後の仕事に必要な語彙力を身につける。	研究活動や就職後の仕事に必要な十分な語彙を習得できる。		研究活動や就職後の仕事に必要な最低限の語彙を習得できる。		研究活動や就職後の仕事に必要な最低限の語彙を習得できない。	
【聞くこと・読むことに関する評価】英文を聞き（あるいは読み）、その英文の特性に応じた聞き方で（あるいは読み方で）、情報や考えを理解することができる。	英文を聞き（あるいは読み）、その英文の特性に応じた聞き方で（あるいは読み方で）、情報や考えを的確に理解することができる。		英文を聞き（あるいは読み）、その英文の特性に応じた聞き方で（あるいは読み方で）、情報や考えの大意を理解することができる。		英文を聞いても、あるいは読んでも、大意をとらえることができない。	
【話すこと・書くことに関する評価】内容を理解した英文について、発音、リズム、イントネーションに留意しながら表現し、その内容を別の英語の表現を用いて伝えることができる。	英文を聞き（あるいは読み）、その英文の特性に応じた聞き方で（あるいは読み方で）、情報や考え内容を理解した英文について、適切な発音・リズム・イントネーションで表現し、その内容を別の英語の表現を用いて的確に伝えることができる。		内容を理解した英文について、発音・リズム・イントネーションに留意しながら表現し、その内容を別の英語の表現を用いて伝えることができる。		内容を理解した英文について、発音・リズム・イントネーションを意識した読みができない。また、その内容を別の英語の表現を用いて伝えることができない。	
学科の到達目標項目との関係						
本科到達目標 1-2 本科到達目標 1-3 本科到達目標 4-2						
教育方法等						
概要	総合英語は、これまで修得してきた言語知識・言語能力を、科学技術分野での研究や就職後の仕事へ活かし、異文化理解に役立てていくための科目である。より専門的で高度な英語の知識と運用能力の修得をサポートする。様々な分野における英語に触れるとともに、国際的コミュニケーションの基礎力を伸長していくことをねらいとする。					
授業の進め方・方法	授業は、適宜プリント、音声、映像を用いた講義形式で進めていくとともに、4技能を実践的な運用能力へ発展させるために、様々な口頭練習、英作文等のトレーニングを行う。随時、語彙や表現の小テストを実施する。また進度に応じて、今までの英語学習で培った知識を用いながら、相手に理解してもらえるようなスピーチのトレーニングも行う。					
注意点	国際社会では、英語の読み書きができるだけでは通用しません。授業内外での音を介した言語活動に積極的に取り組み、運用能力の基盤を作ってください。講義への質問や要望はメール等で随時受け付けるので活用してください。教員室に来室する場合は、授業や会議のスケジュールを通知するので、確認してください。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス、学習方法の説明		ガイダンスを通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を確認する。	
		2週	CNN音声素材（1）、発音、語彙、文法・構文、表現		CNN音声素材を通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を習得し、実践する。	
		3週	CNN音声素材（2）、発音、語彙、文法・構文、表現		CNN音声素材を通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を習得し、実践する。	
		4週	CNN音声素材（3）、発音、語彙、文法・構文、表現		CNN音声素材を通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を習得し、実践する。	
		5週	CNN音声素材（4）、発音、語彙、文法・構文、表現		CNN音声素材を通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を習得し、実践する。	
		6週	CNN音声素材（5）、発音、語彙、文法・構文、表現		CNN音声素材を通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を習得し、実践する。	
		7週	CNN音声素材（6）、発音、語彙、文法・構文、表現		CNN音声素材を通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を習得し、実践する。	
		8週	CNN音声素材（1）～（6）復習、CNN音声素材（7）、発音、語彙、文法・構文、表現		既習の内容の定着度を確認し、定着できていないところの強化を図る。CNN音声素材を通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を習得し、実践する。	
	2ndQ	9週	前期中間試験			
		10週	前期中間試験の返却と解説、CNN音声素材（8）、発音、語彙、文法・構文、表現		CNN音声素材を通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を習得し、実践する。	

		11週	CNN音声素材（9）、発音、語彙、文法・構文、表現	CNN音声素材を通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を習得し、実践する。
		12週	CNN音声素材（10）、発音、語彙、文法・構文、表現	CNN音声素材を通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を習得し、実践する。
		13週	CNN音声素材（11）、発音、語彙、文法・構文、表現	CNN音声素材を通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を習得し、実践する。
		14週	CNN音声素材（7）～（11）復習	既習の内容の定着度を確認し、定着できていないところの強化を図る。
		15週	前期末試験	
		16週	前期末試験の返却と解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語運用の基礎となる知識	英語のつづりと音との関係を理解できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13
			英語の標準的な発音を聴き、音を模倣しながら発声できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13
			英語の発音記号を見て、発音できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13
			リエゾンなど、語と語の連結による音変化を認識できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13
			語・句・文における基本的な強勢を正しく理解し、音読することができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13
			文における基本的なイントネーションを正しく理解し、音読することができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13
			文における基本的な区切りを理解し、音読することができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13
			中学で既習の1200語程度の語彙を定着させるとともに、2600語程度の語彙を新たに習得する。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13,前14
			自分の専門に関する基本的な語彙を習得する。	3	前8,前10,前11,前12,前13,前14
			中学校で既習の文法事項や構文を定着させる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13,前14
			高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得する。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13,前14
		英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7

			説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7
			平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	前8,前10,前11,前12,前13
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	前8,前10,前11,前12,前13
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	前8,前10,前11,前12,前13
			毎分100語程度の速度で平易な物語文などを読み、その概要を把握できる。	3	前2,前3,前5,前6,前7
			自分や身近なことについて100語程度の簡単な文章を書くことができる。	3	前2,前3,前5,前6,前7
			毎分120語程度の速度で物語文や説明文などを読み、その概要を把握できる。	3	前8,前10,前11,前12,前13
			自分や身近なこと及び自分の専門に関する情報や考えについて、200語程度の簡単な文章を書くことができる。	3	前8,前10,前11,前12,前13

評価割合			
	試験	小テストや課題への取り組み	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	20	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

熊本高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	総合英語B	
科目基礎情報							
科目番号	0008			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	共通教育科 (八代)			対象学年	5		
開設期	後期			週時間数	1		
教科書/教材	『DUOセレクト：厳選英単語・熟語1600』（アイシーピー)						
担当教員	宇ノ木 寛文						
到達目標							
1. 実際に日常的に使われるレベルの英語を聞いてその概略を把握することができるように聴解力向上のためのトレーニング法に習熟する。 2. TOEIC受験や進学後の研究活動に必要な語彙力を増強するため様々な活動に取り組み、その語彙を使用できるようになる。 3. 修得した言語材料や英語表現を用いて、自分の意見を文章その他の形で表現できる。 4. 英語によるスピーチやプレゼンテーションについて基本的な知識・技術を習得し、平易な英語によるスピーチやプレゼンテーションを行うことができる							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
1. 【聴解力向上に関する評価】 日常的に使われるレベルの英語を聞いてその概略を把握することができる。		日常的に使われるレベルの英語を聞き、その概要が十分に理解できる。		日常的に使われるレベルの英語を聞き、その概要が最低限理解できる。		日常的に使われるレベルの英語を聞いても、その概要がほぼ理解できない。	
2. 【語彙力増強に関する評価】 日常的に使用されるレベルの語彙を増強し使用することが出来る。		日常的に使用される語彙を十分に使用することができる。		日常的に使用される語彙を最低限使用することができる。		日常的に使用される語彙をほとんど使用することができない。	
3. 【英語表現に関する評価】 修得した言語材料や英語表現を用いて、自分の意見を文章その他の形で表現できる。		作文やスピーチなどに、適切な英語を用いたアウトプットができる。		作文やスピーチなど、英語を用いたアウトプットができる。		作文やスピーチなど、英語を用いたアウトプットができない。	
学科の到達目標項目との関係							
本科到達目標 1-2 本科到達目標 1-3 本科到達目標 4-2							
教育方法等							
概要	総合英語は、これまで修得してきた言語知識・言語能力を、科学技術分野での研究や就職後の仕事へ活かし、異文化理解に役立てていくための科目である。主に進学希望者を対象とし、より専門的で高度な英語の知識と運用能力の修得をサポートする。科学技術系を含む様々な分野における英語に触れるとともに、国際的コミュニケーションの基礎力を伸ばしていくことをねらいとする。文章読解や聴解に加えて初歩的なプレゼンテーションなども行う。						
授業の進め方・方法	授業は、講義形式で進めていくとともに、4技能を実践的な運用能力へ発展させるために、音読練習やディクテーション、既習語彙・構文の口頭練習等のトレーニングを行う。随時、語彙や構文の小テストを実施する。また進度に応じて、今までの英語学習で培った知識を用いながら、相手に理解してもらえるようなスピーチやプレゼンテーションのトレーニングも行う。						
注意点	毎回、予習・復習箇所とその取り組み方を指示する。短期間に集中的に研究に用いる科学技術英語の基礎を習得するために、十分な予習・復習を行った上で授業に臨むことが求められる。 講義への質問や要望はメールでも随時受け付けるので活用すること。来室の場合は、授業や会議のスケジュールを通知するので確認すること。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンスおよび学習方法の説明				
		2週	語彙修得トレーニング 聴解力増強トレーニング 客観的文章の英作文演習 英語スピーチ作成				
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
	7週						
	8週	〔中間試験〕 試験返却と解説					
	4thQ	9週	語彙修得トレーニング 聴解力増強トレーニング 英語プレゼンテーショントレーニング 課題研究英文アブストラクト作成 課題研究発表用英語スライド作成				
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
15週		〔後期学年末試験〕					
16週		学年末試験の返却と解説					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	英語のつづりと音との関係を理解できる。		3	
				英語の標準的な発音を聴き、音を模倣しながら発声できる。		3	
				英語の発音記号を見て、発音できる。		3	

				リエゾンなど、語と語の連結による音変化を認識できる。	3	
				語・句・文における基本的な強勢を正しく理解し、音読することができる。	3	
				文における基本的なイントネーションを正しく理解し、音読することができる。	3	
				文における基本的な区切りを理解し、音読することができる。	3	
				中学で既習の1200語程度の語彙を定着させるとともに、2600語程度の語彙を新たに習得する。	3	
				自分の専門に関する基本的な語彙を習得する。	2	
				中学校で既習の文法事項や構文を定着させる。	3	
				高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得する。	3	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
				毎分100語程度の速度で平易な物語文などを読み、その概要を把握できる。	3	
				自分や身近なことについて100語程度の簡単な文章を書くことができる。	3	
				毎分120語程度の速度で物語文や説明文などを読み、その概要を把握できる。	3	
				自分や身近なこと及び自分の専門に関する情報や考えについて、200語程度の簡単な文章を書くことができる。	2	

評価割合

	試験	発表・課題その他	相互評価	合計
総合評価割合	80	20	0	100
基礎的能力	80	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

熊本高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	社会と法
科目基礎情報						
科目番号	0009			科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	共通教育科 (八代)			対象学年	5	
開設期	後期			週時間数	1	
教科書/教材	特に指定しない。講義資料を配布する。					
担当教員	小林 幸人					
到達目標						
1. 現代法の特徴を理解する。 2. 契約の基本的知識を理解する。 3. 不法行為の基本的知識を理解する。 4. 労働契約に係る基本的な権利・義務について理解する。 5. リスク社会における消費者保護政策、無過失責任主義などについて理解する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
1. 現代法の特徴を理解する。	短答式問題で80%以上正解。 事例問題で、論点、関連法の知識、 解釈を論理的に説明できる。		短答式問題で60%以上正解。 事例問題で、論点、関連法の知識、 解釈を説明できる。		短答式問題および論述問題で理解していることを示すことができない。	
2. 契約の基本的知識を理解する。	短答式問題で80%以上正解。 事例問題で、論点、関連法の知識、 解釈を論理的に説明できる。		短答式問題で60%以上正解。 事例問題で、論点、関連法の知識、 解釈を説明できる。		短答式問題および論述問題で理解していることを示すことができない。	
3. 不法行為の基本的知識を理解する。	短答式問題で80%以上正解。 事例問題で、論点、関連法の知識、 解釈を論理的に説明できる。		短答式問題で60%以上正解。 事例問題で、論点、関連法の知識、 解釈を説明できる。		短答式問題および論述問題で理解していることを示すことができない。	
4. 労働契約に係る基本的な権利・義務について理解する。	短答式問題で80%以上正解。 事例問題で、論点、関連法の知識、 解釈を論理的に説明できる。		短答式問題で60%以上正解。 事例問題で、論点、関連法の知識、 解釈を説明できる。		短答式問題および論述問題で理解していることを示すことができない。	
5. リスク社会における消費者保護政策、無過失責任主義などについて理解する。	短答式問題で80%以上正解。 事例問題で、論点、関連法の知識、 解釈を論理的に説明できる。		短答式問題で60%以上正解。 事例問題で、論点、関連法の知識、 解釈を説明できる。		短答式問題および論述問題で理解していることを示すことができない。	
学科の到達目標項目との関係						
本科到達目標 4-1 本科到達目標 5-2						
教育方法等						
概要	現代社会を秩序付ける重要なシステムとしての法に関する基本的な知識を獲得する。日常生活における法的な権利および義務について、民法を中心に扱う。また、近年の科学技術の発達によって生じた変化によって、法がどのように変容したのかを扱う。					
授業の進め方・方法	講義中心に行う。条文を覚えるのではなく、具体的事例に即して、法的にどのような判断が下されるのかを学ぶため、受講者自身が事例を考察することが必要となる。					
注意点	法の考え方や法律用語については知識として身につける必要があるが、それだけではなく、具体的な事例に関して、法的にどのように解釈できるのかを理解する。そのためには、説明を聴いて覚えるだけではなく、問題を考えていくことが重要である。 学修単位科目であるため、講義2時間に対して1時間の自主学習が必要となる。練習問題などを提示するので、自主学習に努めること					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	法とは何か：現代法の特徴		現代法の特徴、特に私法の特徴について理解し、説明できる。	
		2週	契約の原則		契約行為についての基本知識を得る。私法の基本原則について理解し、事例に応用できる。	
		3週	さまざまな契約（1）		契約に関する論点（意思の不存在、意思表示の瑕疵など）について理解し、事例に即して考察できる	
		4週	さまざまな契約（2）		同上	
		5週	契約と物権（1）		民法上の重要な権利である物権について基本的知識を得て、事例に即して考察できる	
		6週	契約と物権（1）		同上	
		7週	不法行為責任（1）：一般不法行為		一般不法行為の要件について理解し、事例に即して考察できる。	
		8週	〔中間試験〕		前半の学習内容についての理解を確認する。	
	4thQ	9週	不法行為責任（2）：特殊不法行為		特殊不法行為の類型と論点について理解し、事例に即して考察できる	
		10週	消費者保護：製造物責任と消費者保護政策の変容		製造物責任など、近年の過失責任主義からの転換や消費者保護政策の変容について理解し、事例に即して考察できる	
		11週	労働契約と関連法		労働契約の基本的知識と、雇用に関わる法制度の概要について理解する	
		12週	労働契約にかかわる条件（1）		労働基準法などに規定される労働条件についての基本知識を得て、事例に即して考察できる。	
		13週	労働契約にかかわる条件（2）		同上	
		14週	労働紛争と救済方法		労働にかかわる訴訟、紛争とその救済方法について理解し、説明できる	
		15週	法的責任と倫理・道徳		法的規制の特質について理解し、倫理的、道徳的責任の意義について理解し、説明できる。	
		16週				

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会 科学	社会	公民	現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14	
			地歴・公民	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	2	後9,後10,後15	
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を理解し、社会における技術者の役割と責任を説明できる。	2	後1,後6,後7,後9,後10,後15	
				説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。	3	後9,後10,後15	
				技術者を目指す者として、社会での行動規範としての技術者倫理を理解し、問題への適切な対応力（どのように問題を捉え、考え、行動するか）を身に付けて、課題解決のプロセスを実践できる。	3	後7,後10,後15	
				情報技術の進展が社会に及ぼす影響、個人情報保護法、著作権などの法律について説明できる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7	
				知的財産の社会的意義や重要性の観点から、知的財産に関する基本的な事項を説明できる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10	
				社会性、社会的責任、コンプライアンスが強く求められている時代の変化の中で、技術者として信用失墜の禁止と公益の確保が考慮することができる。	3	後7,後10,後11,後12,後13,後14,後15	
	評価割合						
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0